

第133回全体会を広島で開催、2グループに分かれ視察会

田中倉庫運輸の田中社長が「地域での役割」をテーマに講演

倉青協



倉庫業青年経営者協議会（倉青協）曾根和光社長は13日、第133回全体会を広島で開催し、73人が参加した。前日には山口県のアレイン（山口県大島町、吉野栄治社長）で企業交流



曾根会長は「昨年6月に会長に就任し、9ヵ月

全体会を広島で開催し、73人が参加した。前日には山口県のアレイン（山口県大島町、吉野栄治社長）で企業交流



視察会も実施（写真はゲイソー・ロジステイクスの古川社長）



ゲイソー・ロジステイクスの古川社長

が過ぎた。醍醐（正明）前会長はこれほどまで（会員を）束ねてこられたのかと改めて感じていた。会長を引き受ける際に、「私は醍醐会長のようにスパーマンではない」と申し上げたが、強力な4副会長、常任幹



田中倉庫運輸の田中社長

同僚も後輩も痛感しているのでは」と語った。続いて、田中倉庫運輸の田中社長の講演に移った。田中氏は「広島の物流環境を説明するにあたって、自社の創業時の様子を紹介するとともに、『日清戦争が始まった時、（鉄道の）レールの終点が広島。海外に向かう物資やヒトの玄関口が宇品港で、世界の玄関口が広島にあった。それが当時の物流の原点だ』とした。また、『顧客が中国地区の物流拠点をどこにするか考える際、広島にすると決定した上で、パートナー企業を選定する。つまり、広島という地を魅力的にしなれば荷物は来ない』と指摘した。

「人」については、広島県倉庫協会の研修事業を紹介。物流における競争力強化に欠かせない人材育成に関連し、中小企業大学校とタイアップしたオーダーメイド研修など、1社ではできない研修を共同化するメリットを挙げた。「地」については、トラック輸送の高度化により、広島が関西、福岡に吸い上げられてしまう。ストロー現象が起きていたが、一方では、「広島から西日本をカバーする」「消費地に近いというキーワードで荷物が広島に戻ってきた」事例として、冷食3社（ニチレイ、味の素、ニッスイ）の共同配送の事例を紹介した。

事に支えられた会になっていった方が望ましいのではないかと思う。倉青協は、諸先輩方が電話一本、メール一通で互いに相談できるような関係を希望してつくった会であり、本当にそうできる仲間を作ってほしい」と挨拶した。

「運」に関しては、広島では広島県トラック協会、広島県倉庫協会、広島県冷蔵倉庫協会の物流3協会が、県と災害時の協定を締結しているほか、広島県倉庫協会と愛媛県倉庫協会は災害時に人員や再保管等で連携しあうとの協定を結んでいる。こうした取り組みを念頭に、「倉青協メンバーは地方での役割についていま一度持ち帰って（考えて）もらいたい。皆さんが地方と全国の接点になってほしい」と呼び掛けた。

「結」に、日々の倉庫業務について、ひたすら荷物を入れるだけ、ひたすら伝票を切るだけの繰り返しと思う人もあると思う。だが、倉庫

が血液を運ぶ。心臓。荷物は心臓によって運ばれる。血液。と考えたらどうだろうか。絶えず動く血液（血液）を運んでいる心臓の鼓動のように感じられないか。単に右から左に荷物を動かしているのではない。大きな経済を動かすために、心臓を働かせている——それが倉庫業だ」と強調した。

また、「私は大学を卒業後、商社に就職し、米国駐在を含め20年間動いてから家業に戻った。（倉青協会員としては）あまりないケースだった。米国勤務から広島に戻り、カルチャーショックを受けた。初めて倉青協に参加したのが99年の松山大会で、物流業界のことも仕事のことから分らず、知り合いもなく、カルチャーショックが大きかった時期に助けになったのが倉青協の仲間。その時のお付き合いが、業界での活動に大きく役立っていることは、倉青協の

「運」に関しては、広島では広島県トラック協会、広島県倉庫協会、広島県冷蔵倉庫協会の物流3協会が、県と災害時の協定を締結しているほか、広島県倉庫協会と愛媛県倉庫協会は災害時に人員や再保管等で連携しあうとの協定を結んでいる。こうした取り組みを念頭に、「倉青協メンバーは地方での役割についていま一度持ち帰って（考えて）もらいたい。皆さんが地方と全国の接点になってほしい」と呼び掛けた。

結ぶに、日々の倉庫業務について、ひたすら荷物を入れるだけ、ひたすら伝票を切るだけの繰り返しと思う人もあると思う。だが、倉庫

が血液を運ぶ。心臓。荷物は心臓によって運ばれる。血液。と考えたらどうだろうか。絶えず動く血液（血液）を運んでいる心臓の鼓動のように感じられないか。単に右から左に荷物を動かしているのではない。大きな経済を動かすために、心臓を働かせている——それが倉庫業だ」と強調した。

また、「私は大学を卒業後、商社に就職し、米国駐在を含め20年間動いてから家業に戻った。（倉青協会員としては）あまりないケースだった。米国勤務から広島に戻り、カルチャーショックを受けた。初めて倉青協に参加したのが99年の松山大会で、物流業界のことも仕事のことから分らず、知り合いもなく、カルチャーショックが大きかった時期に助けになったのが倉青協の仲間。その時のお付き合いが、業界での活動に大きく役立っていることは、倉青協の

また、「私は大学を卒業後、商社に就職し、米国駐在を含め20年間動いてから家業に戻った。（倉青協会員としては）あまりないケースだった。米国勤務から広島に戻り、カルチャーショックを受けた。初めて倉青協に参加したのが99年の松山大会で、物流業界のことも仕事のことから分らず、知り合いもなく、カルチャーショックが大きかった時期に助けになったのが倉青協の仲間。その時のお付き合いが、業界での活動に大きく役立っていることは、倉青協の

また、「私は大学を卒業後、商社に就職し、米国駐在を含め20年間動いてから家業に戻った。（倉青協会員としては）あまりないケースだった。米国勤務から広島に戻り、カルチャーショックを受けた。初めて倉青協に参加したのが99年の松山大会で、物流業界のことも仕事のことから分らず、知り合いもなく、カルチャーショックが大きかった時期に助けになったのが倉青協の仲間。その時のお付き合いが、業界での活動に大きく役立っていることは、倉青協の

また、「私は大学を卒業後、商社に就職し、米国駐在を含め20年間動いてから家業に戻った。（倉青協会員としては）あまりないケースだった。米国勤務から広島に戻り、カルチャーショックを受けた。初めて倉青協に参加したのが99年の松山大会で、物流業界のことも仕事のことから分らず、知り合いもなく、カルチャーショックが大きかった時期に助けになったのが倉青協の仲間。その時のお付き合いが、業界での活動に大きく役立っていることは、倉青協の